



午後二時三十分、田中貴子氏の司会により総会が開会され、岩田秀生父母会長、渡辺和則学長がそれぞれ挨拶をした後、木村一成議長により議事に入った。

第1号議案の平成二十四年度事業報告並びに決算については、審議の

平成二十五年度 定期総会開催

平成二十五年五月二十五日(土)
午後一時三十分、九段一号館中洲記念講堂において、平成二十五年度二松学舎大学父母会定期総会が開催された。

総会に先立ち、本学文学部・原由来恵准教授による『もし「土佐日記」がなかったら?』と題した講演会が行われた。

二松学舎大学 父母会報

平成 5年5月10日創刊
平成25年7月31日発行
(第81号)

二松学舎大学父母会
(本部・事務局)
東京都千代田区三番町6番地16
二松学舎大学学生支援課

題字は
故 観山貞廣常吉先生書



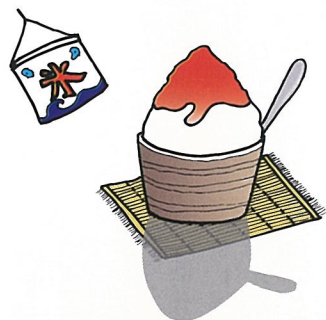
結果、原案どおり承認された。

第II号議案の平成二十五年度役員選出は、会長に三輪秀彰氏、続いて会計監査に星照子氏と野口悦子氏が決定した。

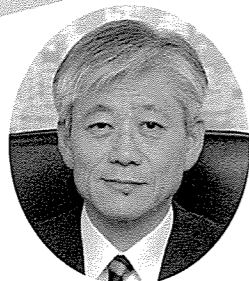
第III号議案の平成二十五年度事業計画並びに予算が審議され、それぞれ原案どおり承認された。

議事終了後、平成二十四年度で役員を退任した吉田浩之氏・権平雅子氏・國府田恭子氏・永松はるみ氏の四名に渡辺学長から感謝状と記念品が贈呈され、総会は終了した。

午後三時三十分から、会場を九段一号館十三階のラウンジに移し、教職員と父母との懇親会が開催された。



ごあいさつ



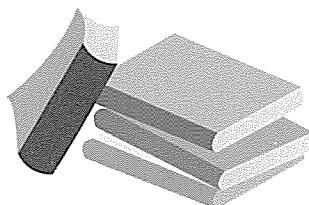
「天命を信じて 人事を尽くす」

学長 渡辺和則

「天命を信じて人事を尽くす」といふことは、
どの人の人生行路も光明に向って
続いています。たとえゆつくりでも、
着実に歩を進めて行けば必ず光明に
到達します。それが「天命を信じて
人事を尽くす」ということです。

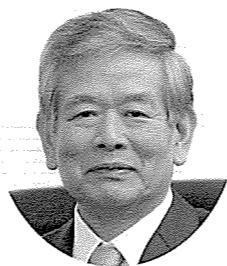
どの学生にも無限に広がる天賦の
潜在能力があります。しかしそれを
真の能力に転換するためには自分自
身の努力が必要です。学生の皆さん
には天命を信じて、無限の潜在能力
を真の能力に転換するための人事を
尽くしてもらいたいと思っています。
元来、二松学舎大学は、学生がよ
く勉強する大学です。教職志望の学
生たちに象徴されるように、将来の
目標に向かって地道に、一所懸命に
勉強する者たちが沢山います。そう
いう学生が更に増えることを期待し
ています。

経済不況で大変なことは事
事があるのか少々不安ではありま
すが、先輩役員の方々に御指導を
頂きお手伝いしていけたらと思っ
ています。
どうぞよろしくお願い致します。



「教育再生！」

理事長 水戸英則



安倍政権が設置した「教育再生実
行会議」では、天然資源に乏しく、
少子化が進行する我が国にとって、
グローバル人材、イノベーション人
材が不可欠だとし、大学にこれらの
人材創出の役割を担うよう求めてい
ます。
一方私立大学は、我が国学生の8
割を擁しており、我が国国力を實質
的に支えています。また個々に建学
の理念を保持しており、小回りが効
き思い切った改革が可能です。日本
の将来は私学にかかっているといっ
ていいでしょう。
知識基盤社会では、既存の価値観

が通用せず、いろいろな学問を融合
しながら問題解決を図ることになり
ます。その鍵を握るのは、現在を見
つめ未来を展望する礎となる古典の
素養です。東アジアをターゲット
とし、知の源泉ともいえる古典に
フォーカスしている本学はそういう
意味で、絶好の位置を占めていると
云えます。
本学は現在、建学の理念に基づ
き、十年先を見据えた長期ビジョン
「N. 2020Plan」を展開しており、
今後も発展著しいアジア各国を巻き
込んだ東アジア共同体を視野に入れ
ながら、改革を進めて行くとの考え

です。
このほど、五年計画のアクション
プランが出来上がりました。教職協
働でこれらを実行して行く段階で
す。「逃げずに、ぶれずに、気合い
を揃えて」、これを実行して行く気
構えが求められます。やるなら今で
しょう。



父母会活動 —大学と学生のために—

父母会会長 三輪秀彰



生に対する教育指導の徹底と、本学
に対する支援の充実化を図り、併せ
て会員相互の親睦に資する」という
本会の目的を達成するため邁進して
まいります。
さて、長年に及ぶ景気の低迷から

脱却への兆しが見えてきた昨今です
がまだ社会全体に及ぼす構造の変化
には程遠い感があります。そんな中
社会はどんな人材を要求しているか
ということであります。学生たちは
大学という教育環境の中で、社会人
となる力を蓄えねばなりません。つ
まり、学術を身につけ、学問する
力をつけてこそ人生におけるチャン
スを掴み生かすことができるからで
す。父母会として、そういう学生た
ちに、そして大学に如何に係わって
行くか真摯に考えていかなければな
らないと思います。みなさまも、わ
が子を見守りながら懸命にバック
アップしていこうという思いではな
いでしょうか。
父母会の事業計画は、大学の現況
や就職・学習状況等の詳細な情報を
得ることが出来る地区別懇談会の実
施。教育研究支援や就職指導支援な
ど教育環境の整備充実。学生生活の
活性化を図る各種課外活動助成。そ
して、大学や学生の近況を報告する
年4回の父母会報の発行など、これ
らを視野に入れ策定されております。
私たち父母の思いが子供たち学生に
少なからず影響を与えられるよう、
役員一同、大学とみなさまのパイプ
役として全力で活動してまいります。
どうぞ、父母会の活動をご理解頂き
ましてよろしくご協力のほどお願い
申し上げます。

新役員紹介 — 役員に就任して

本年度父母会の役員を務めさせ
ていただくことになりました。
五月二十五日の懇談会の際に声
をかけて頂き、父母会での原由来
恵先生の講演にすっかり魅了され
ていた私は思わず快諾しております。

田中幸子

ご縁があり、息子がお世話にな
る二松学舎大学のことをもっと知
りたいと思い、役員をお引き受け
いたしました。学生の皆さんが有
意義な学生生活が送れるよう、微
力ながら応援したいと思っております。
これからは諸先生や先輩役員
の方々のお指導を仰ぎながら、
皆様のお役に立てるよう努力して
まいります。どうぞよろしくお願
いします。

田沼好志枝

本年度父母会役員を務めさせて
頂くことになりました。
中学、高校では悩み多き時代を
過ごした息子が、第一志望に選ん
だのが二松学舎大学です。私も大
学の魅力をより深く感じたいと思
い、役員をお引き受けする事にし
ました。初めての経験ですが、皆
様の御指導を頂きながらお手伝
いさせて頂きますので、宜しくお願
い致します。

三原由美子

私は息子が充実した大学生活を
送っている様子を毎日見ていると、
『毎日充実し、友人にも恵まれ
て、どんな大学なんだろう?』と
日頃思っていたので、役員のお声
かけをいただいたときに、大学を
知るチャンス!と思いました。
諸先生方、先輩役員皆様のご指
導のもと微力ではありますが、お
役に立てればと思います。どうぞ
宜しくお願いいたします。

吉田広美

本年度、役員を務めさせて頂き
ます、新潟の渡邊です。
この歴史ある大学に息子が入学
でき、また、学校のお役に立てる
(?)事はうれしく思います。大
学では、学問に力を注いで頂き、
父母会では、大学を支援するとい
う役割があると思います。
この役割を父母会の皆様と共に
どのようにすれば役に立つのかを
考えて努力したいと思っております
で、今後とも、よろしくお願
いします。

渡邊 勝文

◎日頃、大変お世話になります。郵送物等、配達物、ありがたく感謝申

◎いつもお世話になり、有難うございます。本年度から柏く九段下になり、一人暮らしで色々心配です。会報としか校内の様子がわからない為楽しみにしています。よろしくお願ひします。

(千葉県 文学部3年)

◎地区別懇談会の出席を楽しみにして居ります。

(福島県 政治経済学部4年)

◎父母会の役員の皆様へ
お世話になります。子ども達の為に御尽力頂きありがとうございます。

(千葉県 文学部2年)

◎大変お世話になっております。会報を楽しく読んでおります。学校のことがよくわかりますので、子供と共通認識が持てます。

(東京都 文学部3年)

◎就職が厳しい時代こそ独自の力をつけさせるべき。アジアの言語として「モンゴル語」講座を開講してはどうかと思ひます。父母会で講師等と呼ぶなどしては？

(東京都 文学部2年)

平成25年度 総会余滴

申し上げます

(宮城県 文学部2年)

◎お世話になります。いつもありがとうございます。

(三重県 国際政治経済学部2年)



氏名	役職	学年	氏名	役職	学年
三輪秀彰	会長	4年	倉持政江	広報	2年
山崎正伸	副会長(副学長・学務局長)		吉田広美	広報	2年
木村一成	副会長	3年	田中福男	広報・会計	2年
星照子	会計監査	4年	小沢規久子	広報	2年
岩田秀生		4年	田沼好志枝		1年
鳴海るみ子		4年	三原由美子		1年
小林良記	企画	3年	田中幸子		1年
野口悦子	企画・会計監査	3年	渡邊勝文		1年
田中貴子	企画	3年			

平成25年度役員



平成25年度 二松学舎大学 父母会定期総会議事録

日時：平成25年5月25日(土) 13:30~17:10
 場所：九段校舎 中洲記念講堂
 講演：「もし『土佐日記』がなかったら」
 二松学舎大学文学部准教授 原 由来恵 先生
 出席者：本年度会員数 2,949名
 委任状 1,037名
 出席者 75名 合計 1,112名
 大学側：渡辺学長、吉崎副学長、山崎副学長・学務局長、
 神河学務局次長、西園教学事務副部長
 小西学生支援課長、竹内学生支援課員

1. 開会の辞 司会 田中 貴子
 司会者より「本日総会時の会員数は、2,949名であり、父母会会則第9条により委任状を含めて590名の出席が必要です。本日の出席者は 75名。委任状は1,037名。合計 1,112名です。よって本日の総会は成立する。」との説明があった。続いて、岩田秀生父母会長、渡辺和則学長からそれぞれ挨拶があった。

2. 議長指名
 司会者より「総会の議長は父母会運営細則により会長または会長の指名するものとなっております、会長より木村一成さんが指名されているので、木村議長のもとで議事を進行させたい」との説明があり、木村氏が席についた。

3. 書記・議事録署名人指名
 月永議長が書記及び議事録署名人として次の各氏を指名した。
 書記 鳴海るみ子氏
 議事録署名人 倉持政江氏、小沢規久子氏

4. 議事
 ◇第I号議案〈平成24年度事業報告並びに決算〉
 岩田会長より、議案書に基づき概要説明があり、続いて権平会計監査より監査報告があった。審議の結果、原案のとおり承認された。

◇第II号議案〈平成25年度役員選出〉
 木村議長から、会則第6条・8条に基づき、総会において役員(会長・会計監査)を選出することとなっているとの説明があり、その選出方法について諮られた。選出方法が議長に一任されたのを受け、木村議長から前回同様、大学側に候補者の推薦を依頼したいとの提案があり、承認された。依頼を受けた大学側(山

崎副学長・学務局長)より次の各氏が推薦された。
 会長 三輪秀彰氏
 会計監査 星照子氏 野口悦子氏
 木村議長が大学側から推薦された各氏について諮ったところ異議なく承認された。
 続いて三輪新会長より就任の挨拶があった。

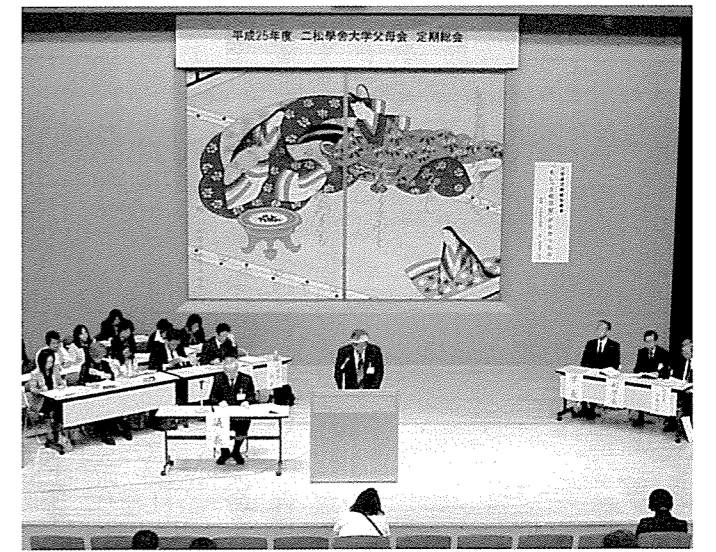
◇第III議案〈平成25年度事業計画並びに予算〉
 三輪新会長より、議案書に基づき概要説明があった。審議の結果、原案のとおり承認された。

議事終了後、下記の退任役員へ渡辺学長より感謝状と記念品が贈呈された。
 吉田浩之氏、権平雅子氏、國府田恭子氏、永松はるみ氏

5. 閉会の辞 司会 田中貴子
 ◇懇親会
 九段校舎13階ラウンジに移動し、懇親会が開催された。
 17時10分、盛会のうちに終了した。

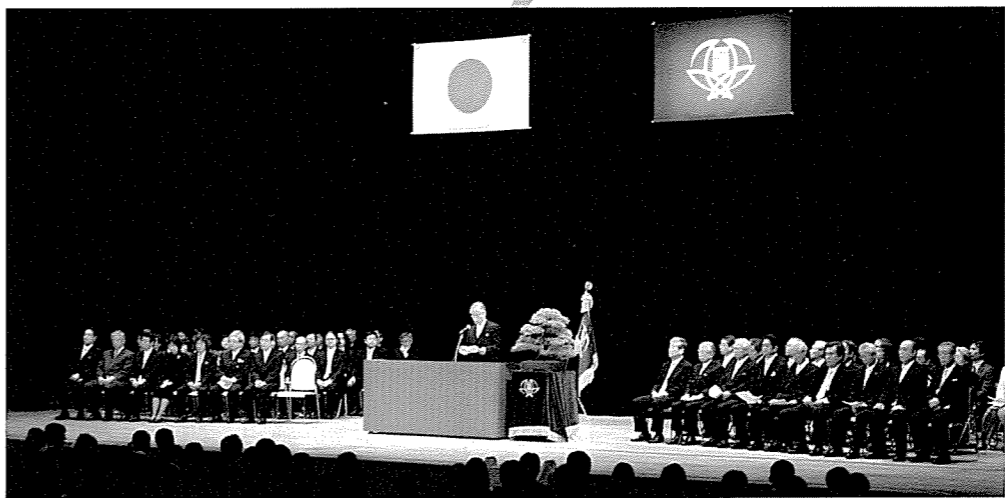
平成25年5月25日

議長 木村 一成 ㊦
 議事録署名人 倉持 政江 ㊦
 議事録署名人 小沢規久子 ㊦
 書記 鳴海るみ子 ㊦



桜花爛漫の四月の入学式からはや四ヶ月。七一一名を数えた新入生もキャンパスでの生活にも慣れ、ようやく大学生らしくなってきました。高校時代とは異なり、自分の裁量・責任で、判断・選択し、創り上げていく生活が始まりました。新たに出会う、様々な経験を得た学友が二松学舎で新しいスタートを踏み出しました。ここでは、大学生活に対する抱負・意気込みを各学科の新入生に書いてもらいました。

大学に入学して



国際政治経済学科

坂井 勇輝



私が二松学舎大学に入学してから一つの季節が過ぎました。高校までとはまったく異なる環境で最初は、不安でしたが、入学式やガイダンス、基礎ゼミ等の授業で徐々に友人が増え、今では日々学び合ったり、遊んだり、楽しい毎日を送っています。

大学の授業の自分で好きな科目を選択するというシステムは、これまで高校までとは異なるもので、自分の興味にあつた分野、将来役に立ちそうな科目をとる事が出来ます。

しかし科目を適当に選んでしまうと、一年間を棒に振ってしまうことさえあります。自分の行動にこれまでに以上に責任をもたないといけないのです。実際自分も科目選択ではとても悩みましたが、今は後悔することもなく学んでいます。

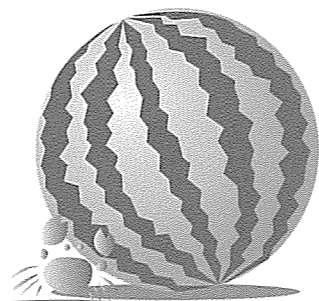
自分は大学に入ったからこそ、大学でしか出来ないことをしていきたいです。それは授業だけではなく、課外活動や遊びなども。その為に、貴重な毎日を大事に過ごし、来る就活に備えて、今自分が興味のある経

営やマーケティングの分野の知識を高めていこうと思います。

そして、将来のための勉強だけでなく、自分がやりたいこと、質格の所得もしたいと思っています。

これから四年間、全てが順当に行くとはいえず、実際大変なところや失敗もするでしょう。しかし、一回の失敗で諦めず、一人で出来ない時には周囲に力を借り、乗り越えて進みたいのです。

そして、自分が大人になって、これまでの生活を思い出した時、すごく良かった、そう思えるような四年間をこの大学で過ごして行きたい、そのためにこれからも努力を続けながら自分の目標へと向かって邁進して行きます。



国文学科

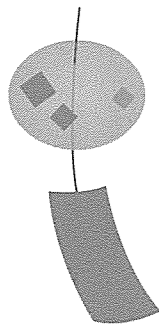
石井 結乃



言葉で伝えるって、難しい。幼い頃から思っていた。選択した言葉が少し違うだけで、相手を傷つけたり、救ったり。言葉の効果は良くも悪くも絶大だ。物語を読んでみても、語り口が少し違うだけで受ける印象がかなり変わる。とても便利だが、とても難しいツールだ。だからこそ、言葉の扱い方を学び、上手くコミュニケーションをとれるようになりたいと思っていた。

高校で、学ぶことが楽しくなるような授業をしてくださる先生方に出会って、「伝える」ことを特に大切にしている身近な職業は教師ではないだろうか、と考えた。そして、この先生方のように伝えることのプロになりたいと思い、大学では教職をとることにした。また、まわりの言葉に敏感に接するうちに、日本語そのもののへの関心もますます強くなり、三年次からは日本語学を専攻したいと考えている。

二松学舎大学に入学しはや四ヶ月。面白い授業や、大学ならではの個性的でステキな先生方にも出会っ



中国文学科

岩 永 侑希

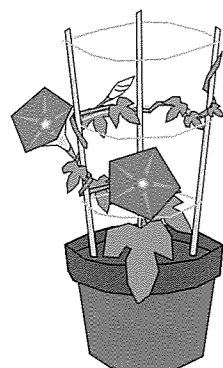


二松学舎に入学して早四ヶ月経った。私は昨今の今頃、まだ進路に悩んでいた。周囲がほとんど志望校を決定していく中、自分だけがはつきりしない。私が大学で追究したいことはなんだろう。そんなとき偶然手に取ったのが、この大学のパンフレットだった。元来、言語に興味がありアジアが好きだった私は、「二松に入ればそれらを深く学ぶことができる」と確信し、受験することを決めた。

無事合格し、入学式を経て、いよいよ授業が始まった。「これから四年間は中国語漬けになるぞ」と意気込んでいた矢先、あることに気がついた。高校と大学の授業の違いである。大学では各授業が週一コマずつである上、進みも早く内容も濃い。さらに自主的に行動し学習する必要が増す。例えば、中国語の授業では書くだけでなく、「声に出して読む」という作業も忘れてはならない。習い始めて四ヶ月だが、未だ発音に苦戦している。予習復習と大忙しである。書道の授業では作品の課題が出

る。高校では書道を深く学ばなかったため驚いた。しかし、自宅で墨をすり筆をもち課題に取り組むという光景が、今ではすっかり日常に溶け込んでいる。高校とは百八十度変わった学生生活となった。

私の大学の目標は、中国の文化や思想を学んだ上で中国語を習得することである。昨年は日中関係がますますこじれているように感じた。しかし、お互いの国の文化の違いを理解すれば、少しは誤解も解け問題解決の糸口がつかめるのではないだろうか。古代から交流があつた国同士、仲良くしたいというのが私の意見だ。全てを解決するには気の遠くなるような時間を要するだろう。これから四年間あらゆることを吸収し、将来は自分なりに日中間の平和に役立てれば、と思っている。





文学部 准教授
町 泉寿郎

昭和六十三年四月に二松学舎大学文学部国文学科に入学した。本学HPのスペシャルコンテンツ「アジアンデバ地下 試食コーナー」にも書いたが、高校一年の時、国語科の高橋俊和先生に文芸評論家の小林秀雄のことを教わり、早速、新潮社の前の全集を買ってきて読んだ。本居宣長・荻生徂徠・伊藤仁斎といった江



国際政治経済学部 教授
白石まりも

私の学生時代は、忍耐と友情という二つの言葉に集約されている。秋田の田舎でバレエと体操に明け暮れていた私は、体操競技に強い女子高に進学。高校の恩師、柳谷和子先生は、とても熱心で厳しい方であった。友人や先輩・後輩と、楽しく3年間を過ごした。

最後の大会が終わり、柳谷先生と

戸時代の学者について書かれたものが印象に残り、また同時にこれら前近代日本の学問が十分な評価をされない状態が続いていると知り、関心を持った。大学でやってみてみたいと思ったことはいくつもあったが、二松学舎に進学することになり、日本の漢文の研究をやるうと思った。

ところが二松学舎の国文学科では日本の漢文を学ぶゼミナールはなく、中国文学科に日本漢学のゼミナールが開かれていたので、三年次に転科して橋本崇治先生に学んだ。

進路を決める面談をするようになった。

「先生のご出身の東京女子体育大学も考えております。しかし、日大や東海大なども視野に入れて…」と私が言うと、先生は「分かった!」と強くおっしゃり、一週間後には東京女子体育大学の推薦入試願書が届いていた。断るという選択は無いように思えて願書を送ると、学年トップで合格通知が届いた。引き続き女子だけの人生が始まった。

私の学生時代

当時は岩波の思想大系本を使って徂徠と仁斎をひたすら読んでいただけで、テキストや研究方法といった専門的なことは、あまり気にしなかった。「道徳論としての徂徠学」というミヨウな卒論を書いて卒業したが、大学院に進学しようと思ったところ、中国学専攻には日本漢学の指導者がおられず、国文学専攻に入って近世文学の青山忠一先生に師事した。

大学院進学後は多少は気持を入れ替えたいと思うが、学部時代はともまじめな学生とは言えな

も意地悪で理不尽であると思いがちだった。黒いカラスも、先輩が白といえば白なのよ、と真顔で言

われた。合宿中は、2段ベッドの上が後輩と決まっていた、身動きせず夜が明けるのを待っていると、窓の外を一羽の鳥が飛んでいった。一生懸命羽を動かして飛ばさずに、折れそうな心が勇気づけられた。同期28人は、励まし助け合ってきたおかげで結束は強く、現在でも2〜3年に1回同期会を開いている。

先輩方の行動を反面教師として、

でも、なかなかその学生は採用されないというようなことです。

このようなことは、単純に本人の問題であると同時に、その会社に行きたいために無理に自分を合わせようとしてしまうことから起こります。自分を飾りすぎたり、無理に背伸びをしなくても、面接官は必ず見抜きます。面接官は、そのような学生を無理に入社させても、息切れをしてしまうだろうという判断から、不採用にします。マニュアルや思い込みを一度リセットして、自分のありのままの姿を認めてもらえる企業を探していく必要があります。そのお手伝いをするのがキャリアセンターです。

キャリアセンターだより 31

二、「働く覚悟」不足の学生

このタイプの学生は、就職活動そのものができないタイプと、最終面接で「お祈り」されてしまうタイプに分かれます。前者については、「働くことを」難しく考えすぎてしまう学生に多く見られます。キャリアセンターで、「将来どうするかを一緒に考えていきたいと思います。後者の何度も最終面接に行くけれどなかなか内定(内々定)をもらえ

なかった。大学には必要最低限しか来なかったと誇張なく言える。両先生には、怠惰で生意気な学生をよく受け入れていただいたと、感謝している。怠惰な学部生時代だったが、今年四月に三年ぶりに開場した、前の歌舞伎座にはよく通った。鼻唄の六代目中村歌右衛門がまだ健在で、その晩年の舞台上に合ったのは幸いだった。その頃の一番の思い出である。当たり役の数々、吉野川の定高、籠釣瓶の八ッ橋、道成寺、先代萩の政岡、合邦の玉手御前、隅田川、対面の大磯の虎、伊勢音頭の万野、建礼門院……、今も目に耳に残る。

2年になり後輩ができるとうれしい先輩になろうと話し合った。その結果、とても態度の大きい後輩ばかりとなり、2年間下働きをする羽目になった。3年・4年はトレーニング論・コーチングの集大成として、インカレ、オールジャパン、オリンピック最終予選まで、選手のトレーナーとして競技会に参加できたのは私の財産である。

昨年度の同期会(四万温泉)での発見。誰も離婚していなかった。理不尽なあの先輩方に耐えられれば、旦那なんて可愛いものだ、との意見で全員一致した。

ない学生は、自分の何がいけないかわからず、一番就職活動で苦労をし、悩んでしまう学生かもしれない。

最終面接まで進んでいるということは、人物的には何も問題はなく、あとは「本当にうちで働く覚悟はありますか」という部分で、企業側に不安を与えてしまっているのです。特に、これから受ける企業については、学生にとって第一希望の会社ではないことが多いため、より不安が増えていくことと思います。その企業を受けた理由、認めてもらった理由をしっかりと考えて臨めば、よい結果(内定)を得ることができるはず

です。

今回二つの例をあげましたが、4年生で現在まだ内定を得ていない学生の多くが、圧倒的に活動量が不足しています。これは実際の企業への採用面接だけでなく、合同説明会への参加や自己分析なども含めてのことになります。その中には、キャリアセンターの利用も含まれます。

ただ漠然と複数社の採用面接に出かけている学生、なかなか行動に踏み切れない学生など、状況は学生により様々です。うまく我々を利用して、今までの活動をしっかりと棚卸しして、リスタートをきれるようにしていただければと思います。

今年度も、このページをお借りして、ご父母の皆さまにキャリアセンターからの情報を発信していきたいと思っておりますので、よろしくお祈りいたします。

さて、今年度よりキャリアセンターの事務室が移動しました。以前は少し奥まった場所にあったため、来室をためらう学生もいたかもしれませんが、新しい事務室は同じ3階の事務フロアですが、エレベーターを出てすぐに入口があり、事務スペースと学生スペースが分かれております。相談がある学生はもちろん、特に用事がない学生も、ふらっと立ち寄れるようになっております。

キャリアセンターでは、父母会からのご支援を受け、カウンセラーの配置、日本語検定の学内受験、各種就職対策講座の実施をしています。学生が利用しやすいキャリアセンターを目指して、我々スタッフも気持ち新たにサポートしていきたいと思っておりますので、さらなるご支援のほど、よろしくお祈りいたします。

この号がお手元に届く頃には、今年度の地区別父母懇談会も一通り終了した頃かと思えます。多くのご父母にとって、「我が子の就職先」というのは、一番の関心事項ですので今年度も多くのご相談がありました。

新	入
生	
迎	式
典	

学生会執行委員会を務めておりま
す、金原和真です。新入生の皆さん
ご入学おめでとうございます。

新入生の皆さんは4月に入学し、
早くも7月を迎えました。そろそろ
大学生活にも慣れたと思います。親
元から離れ、上京し、新しい環境
で、自分で時間割を立て、アルバイ
トやサークル活動、その他資格の勉
強など、つい前までは初めてのこ
とばかりだったのが、この夏を迎え
自分のライフスタイルができてつあ
ると思います。7月下旬からの試験
期間が終われば、すぐに夏季休業に
なり、自分のやりたいことがもつと
広がるのではないかと思います。ぜ
ひ、頑張ってください。

さて、4月5日(金)に行われま
した新入生歓迎式典。この企画は新
入生へ在校生から歓迎するだけで
なく、新入生と在校生の親睦を深め
ることやサークルや部活動の紹介、
そしてこれから4年間通う二松学舎
大学をより知ってもらおうという企
画です。

今年の新入生歓迎式典は「千変万
化(せんばんばんか)」をテーマに
し、学生会執行委員会一同、昨年
の12月から企画しました。このテ

マは、「新入生歓迎式典という新入
生、在校生の出会いの場をきっかけ
に、これから始まる大学生活で新し
い自分を作り上げていって欲しい」
という願いを込めました。

このテーマ通りに新入生歓迎式典
は朝早くから盛り上がり、中洲記念
講堂ではアカペラの透き通る歌声や
迫力ある演舞、各教室からは一生懸
命新入生を引き込もうと、大声を上
げ宣伝チラシを配布する団体が多く
見られました。新入生のほとんどが
来場という結果となりました。企画
者側である学生会執行委員会にも20
名以上を超える新入生が入会し、会
長としては、これからの活動がとて
も楽しみです。

また、新入生歓迎式典。が無事成
功したのは、父母会の皆さま、学生
支援課の皆さまをはじめ、各部活、
サークルのご協力と参加して下さい
ました。新入生のお陰だと思えます。
新入生の皆さん、これからも楽し
い二松学舎キャンパスライフを送っ
て下さい。



九段祭POP & 柏祭GUTS開催

今年は昨年と異なり、春セメス
ターの期間に二つの行事を開催致し
ました。一つは6月23日(日)に九
段キャンパスで開催した「九段祭
POP」、もう一つは6月30日(日)
に柏キャンパスで開催した「柏祭
GUTS」です。まず、「九段祭POP」
とは学内生向けの文化祭です。実は
POPは一昨年で「柏祭POP」として
柏キャンパスで開催されていた行
事でしたが、柏キャンパスの学生の
減少に伴い、一昨年で一度終了して
しまいました。そして、今年文化系
団体の強い要望を受け、新たに「九
段祭POP」として開催する運びとな
りました。今年の中洲記念講堂での
ステージ発表と、九段キャンパス1
号館内の教室を幅広く利用した展示
や劇、冊子配布などを行いました。
また、学生会執行委員会企画とし中
庭でビンゴ大会も行いました。「九
段祭POP」としては第1回目でした
が、それにも関わらず多くの部活
動・サークルに参加して頂き、また
当日には多くの来場者にお越し頂
き、無事成功しました。

GUTSは柏キャンパスで行う球技
祭のことです。今年の開催種目は、
バスケットボール、ソフトボール、
ドッジボールの三種目でした。当日
は天候に恵まれ、どの競技でも白熱
した試合を見ることができました。
「九段祭POP」と「柏祭GUTS」
は参加して下さい皆様、また「九
段祭POP」は来場者の皆様がいなく
ては成功することはできませんで
した。この場をお借りし、お礼申し上
げます。本当にありがとうございました
！また、今年お越し頂けなかつ
た方も、是非来年こそは九段祭POP
を見に来て下さい！ 学生の方は、
是非九段祭POPにも、柏祭GUTSに
も参加して下さい！



夏休みを迎え、慌しい学生相談
室の日々もひと段落です。学生も
それぞれの夏休みに向けて動き出
している様子です。

さて、今回は学生相談室利用の
きっかけについてお伝えします。
最近、学生相談室では、さまざま
な機会をとらえて、相談室にきて
みませんか、という個別の呼びか
けを行っています。

相談室は、自発的に
相談をしたいという意
思のある人には、お役
に立ちやすいところで
す。その一方で、有効
活用できる可能性が高
いのには、相談室に来る
機会を逃してしまっ場
合も多いものです。学
生にとって、相談室
を自ら利用できる条件
は意外と厳しいよう
です。

学生相談室

だより81

カウンセラー・教授 改田明子

では、その条件を挙げてみま
しょう。①相談室を知っている、
②現状で何かうまくいっていない
という自覚がある、③相談すると
良い方向での変化が期待できると
思える、④自分のことを話す勇氣
がある、⑤相談室に行く時間の余
裕がある、などなど挙げたらきり
がありません。そこで、色々な条

件で、相談室に繋がりにくくなっ
ている学生に、積極的にアプロ
チすることを通じて、相談室利用
のきっかけ作りをしています。
誰しも困りごとの一つや二つ、
抱えながらの学生生活ですから、
相談室を利用しながらの学生生活
は、どのような学生にとつても有
意義なものとなります。私たちが
日頃からお伝えしたいと考えて
いることは、病気だか
ら、弱みから相談室に
行くのではなく、相談
室を利用する学生は、
その人なりの相談室を
利用する条件が整って
いる人だということです。
最後に、相談室の利
用を残念なことだと勘
違いしている人々の存
在も利用を妨げるハ
ドルになつているかも知れませ
ん。相談室の利用は、図書館の利
用と同じくらいに当たり前のこと
だということを知らせてもらえよ
う、学生相談室ではさまざまな取
り組みを行っています。ご家族の
方もどうぞ、お気軽にご利用くだ
さい。

平成24年度決算の概要

平成24年度の状況

平成24年10月10日、二松学舎創立135周年を迎え、記念式典を九段キャンパス中洲記念講堂、祝賀会を13階ファカルティ・ラウンジにおいて実施した。創立135周年を機に二松学舎の将来構想として「長期ビジョンN'2020 Plan」を定め公表した。また、135周年記念出版・広報等の各種事業を実施、大学の九段集約に伴い施設の拡充をはかるため九段南2丁目に新校舎用地を取得した。

当年度入学者の募集定員充足率は、大学/学部118%、附属高校101%、柏高校104%、柏中学校45%であり、在籍者の収容定員充足率は、大学/学部125%、附属高校91%、柏高校91%、柏中学校60%であり、大学院および柏中学校で入学定員、収容定員ともに未充足となった。

大学では、平成23年3月11日に発生した東日本大震災並びに福島第一原子力発電所事故に伴う被災学生に対し、授業料等の減免措置を前年度に引き続き実施し、全学的に、教育研究振興資金募金として被災学生支援のための募金活動を行った。

平成24年度の決算概況

学校法人における決算書は、事業年度の消費収入と消費支出の均衡状態や財政の健全度合いを示す消費収支計算書、学校法人の諸活動に関わるすべての資金の流れを示す資金収支計算書および年度末における資産・負債・正味資産の状態を示す貸借対照表から成っており、それぞれ別表1、別表2および別表3のとおりである。

1. 消費収支計算書について (別表1)

消費収支計算では、帰属収入合計が51億1千4百万円、基本金組入額は15億2千7百万円（このうち土地11億7千8百万円）、消費収入合計は35億8千7百万円、消費支出合計は47億7千1百万円となり、消費収支差額は11億8千4百万円の消費支出超過となった。

消費収入では、入学者数が大学院18名・学部709名・附属高校253名・柏高校258名・柏中学校46名、合計1,284名で前年度比47名増加、在籍者数は大学院55名・学部2,991名・附属高校686名・柏高校680名・柏中学校123名、合計4,535名（人数は平成24年5月1日現在）で、学生生徒等納付金は37億7千3百万円（前年度比3千9百万円増加）となった。補助金は7億4千8百万円（このうち経常費補助金は国庫補助金1億8千4百万円、東京都補助金2億3千7百万円、千葉県補助金2億7千9百万円）、資産運用収入・売却差額は1億2千9百万円（前年度比3千1百万円増加）、雑収入は2億3千2百万円（このうち退職金団体交付金は1億9千8百万円）となった。消費支出では、人件費が28億8千5百万円（退職給与引当金繰入額増加、柏中学校の年次進行等により前年度比1億1千1百万円増加）、教育研究経費は14億2千8百万円（前年度比3千2百万円増加）となり、管理経費は4億4百万円（前年度比2千9百万円増加）、資産処分差額は3百万円（前年度比3億7千3百万円減少）となった。

2. 資金収支計算書について (別表2)

収入の部では、資産売却収入が金銭信託の償還等により16億5千万円（前年度比5億8千7百万円減少）となり、学納金等の前受金収入は9億6千4百万円（前年度比1億7千7百万円増加）、その他の収入は退職給与特定資産からの繰入収入、保証金回収収入、前期末未収入金収入により9億6千6百万円、前年度繰越支払資金を含め収入の部合計額は11億5千9百万円となった。

支出の部では、人件費支出が28億2百万円（定年退職者増による退職金支出増加、前年度比1億2千2百万円増加）、教育研究経費支出は9億8百万円（前年度比2千7百万円増加）、管理経費支出は3億7千8百万円（前年度比2千9百万円増加）、借入金返済および利息支出は7億9千3百万円となった。施設設備関連の支出は大学九段新校舎用地の取得、校舎の改修・整備、図書・備品の購入等により12億8千3百万円（前年度比11億5千4百万円増加）となり、資産運用支出は15億5千2百万円となった。このほか前期末未払金の支出等があり、これらの結果、次年度繰越支払資金は37億3千7百万円（前年度末より2億8千9百万円増加）となった。

3. 貸借対照表について (別表3)

資産の部は、有形固定資産が大学九段新校舎用地の取得、施設整備や図書・備品の購入等により12億8千6百万円増加、減価償却額5億4千5百万円等により171億7千7百万円（前年度末比7億4千1百万円増加）となった。また、その他の固定資産は、有価証券の償還や短期（流動資産）への振替、退職給与引当金の取崩し等により40億1千1百万円（前年度末比6億6百万円減少）となり、流動資産は57億1千5百万円（前年度比1億5千5百万円増加）となった。

負債の部は、私学事業団への借入金返済や退職給与引当金の減少により固定負債は28億9千万円となった。また、平成25年度入学者の増加により前受金（学納金）が増加したほか未払金、預り金の増加により流動負債は16億4千9百万円となり、負債額の合計は45億3千9百万円（前年度比5千2百万円減少）となった。

基本金の部は、第1号基本金(土地・建物・図書・備品等固定資産の取得)及び第3号基本金(奨学基金)の組入額15億2千7百万円により233億4千7百万円となった。

これらの結果、平成24年度末における貸借対照表は、資産の部合計額269億3百万円、負債の部合計45億3千9百万円、基本金の部合計額233億4千7百万円、消費収支差額の部における翌年度繰越消費支出超過額は9億8千3百万円となり、正味財産額は223億6千4百万円（前年度末より3億4千3百万円増加）となった。

4. 主な財務比率について (別表4)

人件費・教育研究経費・管理経費が前年度比増加し、消費収支関係比率では、人件費比率（帰属収入に占める人件費の割合）、人件費依存率（学生生徒等納付金に占める人件費の割合）および管理経費比率（帰属収入に占める管理経費の割合）が上昇し、教育研究費比率（帰属収入に占める教育研究経費の割合）は横ばいとなった。帰属収支差額比率は近年低下傾向にあったが学納金、資産運用収入・売却差額、雑収入の増加により大幅上昇となった。また、大学九段新校舎用地の取得により基本金組入率が上昇した。貸借対照表関連比率では、固定資産構成比率（総資産に占める固定資産の割合）、流動資産構成比率（総資産に占める流動資産の割合）、固定比率（自己資金に占める固定資産の割合）、流動比率（流動負債に占める流動資産の割合）は、設備投資（校地取得や校舎建築）や資金の保有形態のシフト（預貯金から債券へ）などにより固定資産の割合が高かったが、平成20年度以降は借入金返済や有価証券の償還（流動資産への振替）、前受金保有率上昇など流動比率の割合が高くなっている。一方、設備投資に伴う基本金組入などにより消費収支差額構成比率（総資金に占める消費収支差額の割合）は低下傾向にある。そのほか、自己資金構成率（総資金に占める自己資金の割合）及び負債比率（自己資金に占める総負債の割合）、基本金比率、内部留保資産率（財政上の余裕度）、運用資産余裕比率（支出規模に対する資金の蓄積度）、退職給与引当金預金率等は良好な水準にある。

菅原ゼミナール

二十世紀は、戦争の世紀であると言っても過言ではありません。人類は二度の大戦を経験し、その後も冷戦やその代理戦争、地域紛争等が多発しました。二十一世紀に入っても、紛争の撲滅には至っておらず、多くの国際問題が存在しています。その原因は多岐に渡り、政治、経済、イデオロギー、民族、宗教等のファクターが複雑に絡み合っています。菅原ゼミでは、菅原先生の講義と

学生間の議論を通して、民族問題をはじめこれら諸問題を解決する手掛かりを探ることをテーマとしています。菅原先生は私達学生の理解力に合せて講義をしてくれるので、非常に取り組みやすく、国際問題への理解が深まってくことを実感できるゼミであると思います。また、理解が深まることで興味が湧き、自然と関心も深まってくるので、学生は皆意欲的に研究に取り組んでいます。私達四年生の目標は、各自で定めた研究テーマをベースにした論文

菅原ゼミのメンバーは男子9名、女子6名です。皆仲が良く、定期的懇談会を開いて親交を深めています。現在は就職活動をしているメンバーも多く、皆で日々励まし合いながら頑張っています。私達は菅原ゼミでの研究を大学生活の集大成と位置づけ、実りあるも



のにすべく取り組んで参ります。 四年 柳下和也

家井ゼミナール

家井ゼミナールの特徴を挙げるにすれば、「愛がある」と言うべきでしょうか。その愛は時には飽となりまた時には鞭となつて私たちに与えられます。いや、専ら愛の鞭だったかもしれませぬ。兎も角、当ゼミナールは決して楽をして二年間を過ごせるような場所ではありませんが、その分大学生として充実した研究活動が行える場所であることを保証します。

である『詩経』を伝統的解釈から離れて、原義的解釈によって読み解きます。一応「中国文学」という分野に属しているのですが、実際は宗教学や考古学・音韻学・文学等の知識も必要とされる、とても複雑でしかしながら知的好奇心を突き動かされる学問です。発表にあたりレジュメは勿論資料も自作するのですが、様々な書籍からコピーしたものを切り貼りして独自の資料を作り上げるので、資料もまた努力の結晶と言えるでしょう。ゼミ生の構成は、四年生が三人で三年生が

ゼミ探訪

四人の計七人です。ゼミ生自体は少ないですが家井先生以外にも多くの「先輩」に支えられているので、毎回濃密な授業が展開されます。また私たちは普段から研究室を拠点に予習を行っているので、学生同士の結びつきも自ずと強くなります。そして私たちの面倒を見てくださるのが家井眞先生、チャームポイントは白いお髭です。そんな先生のお人柄ですが、これはとても一言で言い表せるものではなくまた私のような小娘が一存で所見を述べるとはとても恐れ多い……ということ、実際に研究



室に遊びに来て先生のお人柄に触れてみてください。私たちもお待ちしております。 四年 秋山里沙

別表5 消費収支予算書

(単位：百万円)

科 目	平成25年度 予 算	平成24年度 決 算	増 減
消費収入の部			
学生生徒等納付金	3,839	3,773	66
手数料	128	125	2
寄付金	32	57	△ 26
補助金	774	748	26
資産運用収入	118	129	△ 11
資産売却差額	0	46	△ 46
事業収入	3	3	△ 0
雑収入	222	232	△ 11
帰属収入合計	5,114	5,114	0
基本金組入額合計	△ 588	△ 1,527	939
消費収入の部合計	4,527	3,587	940
消費支出の部			
人件費	2,849	2,885	△ 36
教育研究経費	1,563	1,428	136
管理経費	419	404	15
借入金等利息	35	41	△ 5
資産処分差額	0	3	△ 3
徴収不能引当金繰入額	0	10	△ 10
消費支出の部合計	4,867	4,771	95
当年度消費支出超過額	△ 340	△ 1,184	844
前年度繰越消費収入超過額	△ 983	202	△ 1,184
翌年度繰越消費収支差額	△ 1,323	△ 983	△ 340

注) 金額は百万円未満を四捨五入しているため、合計額等が一致しない場合がある。

別表6 資金収支予算書

(単位：百万円)

科 目	平成25年度 予 算	平成24年度 決 算	増 減
収入の部			
学生生徒等納付金収入	3,839	3,773	66
手数料収入	128	125	2
寄付金収入	32	54	△ 22
補助金収入	774	748	26
資産運用収入	118	129	△ 11
資産売却収入	200	1,650	△ 1,450
事業収入	3	3	△ 0
雑収入	222	232	△ 11
借入金等収入	1	501	△ 500
前受金収入	971	964	7
その他の収入	473	966	△ 493
資金収入調整勘定	△ 1,159	△ 1,003	△ 156
当年度資金収入合計	5,599	8,141	△ 2,542
前年度繰越支払資金	3,737	3,449	289
収入の部合計	9,337	11,590	△ 2,253
支出の部			
人件費支出	2,869	2,924	△ 55
教育研究経費支出	997	908	88
管理経費支出	390	378	12
借入金等利息支出	35	41	△ 5
借入金等返済支出	313	752	△ 439
施設関係支出	206	1,178	△ 972
設備関係支出	257	105	153
資産運用支出	599	1,552	△ 952
その他の支出	166	188	△ 22
資金支出調整勘定	△ 198	△ 172	△ 26
当年度資金支出合計	5,634	7,853	△ 2,219
次年度繰越支払資金	3,703	3,737	△ 34
支出の部合計	9,337	11,590	△ 2,253

防災への取り組み

本学では、年一回九段・柏両校舎で『防災避難訓練』を実施し、地震や火災等の災害に対する心構えについて周知を図っております。今般、防災への関心が高まる状況下、本学が取り組んでいる防災対策についてお知らせします。

①『防災避難訓練』の時期に、避難時の注意等、放送による説明を行い、防災への意識発揚を促しています。

②教室に地震発生時の対応を掲示し、学生・教職員が適切な行動ができるように配慮しています。

③学生・教職員に名刺サイズの携帯用『大地震対応マニュアル』を配付し、災害時の心得や安否確認メールの利用方法等を周知しています。

<http://www.nishogakusha-u.ac.jp/jishn-mobile/>

④非常用食料・飲料水や毛布、簡易トイレ等を備蓄し、帰宅困難時に学内待機ができる環境を整えています。

⑤防災用無線機の設置等により、千代田区や区内協定大学との連携体制を構築しています。今般も適宜改善を図りながら、万全な防災対策を目指します。

編集後記

水分補給していますか？

関東では、例年のより二週間も早く梅雨明けとなり、厚い日が続いております。まだ、7月だと言うのにこの暑さ、8月が来たらどうなるのか。今から心配になります。

連日、朝のニュースでも水分補給を行って熱中症予防を行う様に話されています。温暖化による異常気象が多発しておりますので、皆様にも十二分にご注意をされます様に御願致します。

さて、父母会報第81号では、4月に入学されました新入生による大学生活の抱負・意気込みを掲載させて頂いております。新入生の本当の気持ち「抱負と意気込み十不安……」が書かれていますので、是非、お読み頂きたいと思えます。

二松学舎大学父母会は、各学年から4名、16名の役員で構成されております。

大学側と学生側と両方に関わりを持ちながら学生達がより良い環境で学生生活を過ごして貰う事を一番に考えて活動しております。

父母会の活動に関しまして、ご意見等ございましたら父母会事務局の方までご一報を頂けましたら幸いです。